

伊勢国府(長者屋敷遺跡)(国の史跡)(鈴鹿市広瀬町字長塚)

古代伊勢国の政治の中心地である国府の跡である。

この遺跡は、鈴鹿川中流北側の河岸段丘上にあり、長者屋敷遺跡と呼ばれ古くから古代の瓦が大量に出土する場所として知られていた。

最初の発掘調査は、昭和 32 年に京都大学の藤岡謙二郎氏によって行われ、鈴鹿関との関係から軍団機能を兼ね備えた奈良時代の国府跡と考えられた。

本格的な発掘踏査は、平成 4 年から鈴鹿市教育委員会が国庫補助を受けて実施しており、政庁跡や役所関係の遺構が多数確認され、この遺跡が奈良時代中頃から平安時代初めまでの伊勢国府の跡であることが明らかになった。

古代に大国にランクされ、また鈴鹿関を所管する重要な伊勢国の国府跡であり、国府全体の構造を把握できる重要な遺跡である。

「三重観光」による

三重県鈴鹿(すずか)市広瀬町にある国府跡。県北部を流れる鈴鹿川南岸、標高約 50m の台地上南辺に位置する古代の国府跡である。古くからこの周辺は長者屋敷遺跡と呼ばれ、東西約 600m、南北約 800m の範囲に古瓦が大量に散布していることが知られていて、1992 年(平成 4)からの発掘調査の結果、国庁と国司館などと推定される官衙(かんが)群 2 ヲ所が確認された。遺跡南辺の通称、矢下(やおろし)地区にある [国庁](#) は、東西約 80m、南北約 110m の築地の区画のなかに正殿と後殿が前後に並び、正殿の東西に南北棟の脇殿が、南の築地には南門が配置されている。正殿と後殿、脇殿は屋根がついた渡り廊下でつながり、建物はすべて礎石建ち、瓦葺きで、それぞれ [基壇](#) を備えている。基壇は高さが約 1m で礎石の一部が地表に見え、全体の遺存状況はきわめて良好である。国庁北側約 200m の長塚地区には、東西棟の大型建物の基壇が南北に 2 基並び、その西側に南北棟建物が配置されている。この南北棟建物の雨落ち溝からは、屋根瓦が葺かれた状態で出土している。長塚地区から東側約 300m の南野地区には、両面庇のある南北棟建物の基壇が残っており、その東にさらに基壇 1 基が確認でき、基壇の西側には土塁状の高まりがあり、区画施設と推定される。また、国庁の周辺から北側には道路と溝による 120m 単位の方形の地割りが東西 5 列、南北 6 列あったと確認されており、他の国府では明らかにされていない都城の条坊制に類似した土地区画の存在が注目される。出土した瓦や土器から、奈良時代中期～平安時代初期の建造と考えられ、その後、他の場所に移転されたものと推定されている。このように国庁と関連施設 2 ヲ所が明らかになっているなど、国府全体の様相がかなり判明して貴重なことから、2002 年(平成 14)に国の史跡に指定された。JR 関西本線井田川駅か徒歩約 1 時間。

「コトバンク」による

